

ボリビア（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在ボリビア日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
3	12	150	0	0	0	0	0	0	3	26	320	6	38	470

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

ボリビアにおける日本語教育は、日本人移住の歴史とともに始まった。日本語教育が本格化したのは、1950年代に行われた戦後の集団移住以降である。沖縄移住地やサンファン移住地の成立に伴い、移住者の子どもを対象として、日本語や日本文化を教える学校や補習教育が行われるようになった。

その後、世代交代とスペイン語中心の生活環境の影響により、日本語を日常的に使う機会は減少した。このため、日本語教育は母語教育から、日系人の子どもを対象とした継承語教育へと変化した。さらに1990年代以降は、日本文化への関心の高まりを背景に、非日系ボリビア人にも日本語が教えられるようになり、日本語教育の対象と目的が広がった。

背景

ボリビア日本語教育の背景には、戦後の日本の海外移住政策と、ボリビア政府の農業開発政策がある。日本人移住地の建設により、移住者の子どもが日本語や日本文化を学ぶ必要が生じ、日本語教育が始まった。

また、日系社会の中で、日本語は祖先の言語として大切にされ、家庭や地域活動と結びついて受け継がれてきた。加えて、日本とボリビアの友好関係を背景に、日本政府や国際協力機関による教員派遣や教材支援が行われ、日本語教育の継続が支えられている。近年では、グローバル化や日本文化への関心の高まりにより、日本語教育は外国語教育としての側面も強めている。

特徴

ボリビアの日本語教育は、日本人移住地を中心に発展してきた点に特徴がある。日本語は当初、移住者の子どもに対する母語教育として行われていた。

しかし、世代交代とスペイン語中心の生活環境の影響により、日本語教育は継承語教育へと変化した。現在では、日系人だけでなく、非日系ボリビア人にも日本語が教えられており、日本語は外国語としての役割も持っている。

また、日本語教育は学校だけでなく、日本祭りや武道などの文化活動と結びついて行われている。さらに、日系人教師や日本からの派遣教師によって支えられており、日本側の支援が重要な役割を果たしている。

最新動向

特になし。

教育段階別の状況

初等教育

サンファン移住地においては、非営利法人サンファン日ボ協会の運営する提携公立学校（サンファン学園）において正規の外国語科目として日本語が認められていたが、教育制度の変更により正規の外国語科目とは認められなくなり、午前中の正規の授業外に日本語授業を行っている。オキナワ移住地においては、第1地区の私立学校（オキナワ第1日ボ校）ならびに第2地区の公立学校（ヌエバ・エスペランサ校）において、午前中の正規授業の後、午後から非公認の日本語学校として同校舎にて、日本語授業を行っている。

中等教育

上記【初等教育】を行っている、オキナワ第1日ボ校とヌエバ・エスペランサ日本語学校では中等部6年まで、サンファン学園では中等部4年までの生徒が日本語を学習している。

高等教育

日本語教育は正式には実施されていないが、山形大学の支援で2015年12月よりラパス市の国立サンアンドレス大学技術学部調査・技術研究所内の教室において同大学学生希望者に対するサンアンドレス大学出身の元山形大学推薦国費留学生（研究）による夜間の日本語講座（非正規科目）が開始された。現在も継続中であるが、山形大学からもサンアンドレス大学からも運営費への支援は受けていない。

学校教育以外

サンタクルス市では、サンタクルス中央日本人会が運営していた日本語普及学校が2020年のコロナ禍で閉校

を余儀なくされた。2021年からボリビア日系協会連合会がオンライン日本語教室を開講、2023年度から対面授業に切り替え、毎週土曜日に日本語教室を開講、日系・非日系問わず4歳～17歳の子ども達が日本語を学んでいる。並行して一般成人を対象とする日本語普及クラスも開講している。

ラパス市では、一般人を対象とするラパス日本語普及校がボリビア日本文化財団（法人格所得）により運営されている。また、ラパス日本人会が日本語補習授業校を運営していたが、2023年度に閉講、同年7月に財団法人ラパス日本語普及校にて子どもクラスが開講された。コチャバンバ市では、コチャバンバ日本ボリビア文化協会が、日本語に関心のある人を対象とした成人向け日本語講座を開講している。

他には2019年からチュキサカ県スクレ市のスクレ日ボ文化協会において青年向け日本語講座が不定期に開催されていたが、同団体の活動休止により、現在は中止されている。

同様に、ベニ県内で唯一会館施設を有するリベラルタ日ボ文化協会では、出稼ぎ帰国者（中学までを日本で勉強など）を中心に日本語講座が不定期に開設されている。同様にベニ県首都のトリニダ市でも出稼ぎ帰国者（幼少時に渡航、高校まで日本で勉強）による日本語講座が不定期に開設されている。いずれも対面式であり、郊外、農村地帯の不安定なインターネット接続環境により、オンライン講座の開講には困難がともなう。また、月謝の未払いなども多く、教材開発、教案作成、教授法指導の導入による体系的な日本語教育には至っておらず、継続的に開講することは困難である。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

2-6-6-4制。

幼児教育2年、初等教育6年及び中等教育6年が義務教育となる。

教育行政

幼児、初等、中等及び高等教育機関のすべてが教育省の管轄下にある。

言語事情

スペイン語が主たる公用語で、36の先住民言語全てが2009年に公用語となった。

主要先住民言語であるアイマラ語、ケチュア語及びグアラニー語のうちの一つは教育が全ての初等・中等教育機関で必修言語となっている。

外国語教育

都市部では、初等教育中間課程（7年生）から、英語またはフランス語（第1外国語）が必修。主要都市のアメリカンスクール、ドイツ学校及びフランス学校では英語、ドイツ語及びフランス語での授業が行われている。なお、日本語は日系人コミュニティの中で教えられている。

外国語の中での日本語の人気

英語やフランス語、ポルトガル語などの欧米言語の人気は（それぞれの国々への留学の可能性を含め）高いが、アジア圏の言語の中では、日本の製品やアニメをきっかけに、日本語は比較的高い人気を得ている。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4.学習環境

教材

初等教育

サンファン移住地の継承日本語クラスでは、光村図書の国語教科書（小1～6）が使用されている。家庭において日本語の使用がない学習者には、『みえこさんのにほんご』及び自作教材が使用されている。

オキナワ移住地のヌエバ・エスペランサ日本語クラスでは、光村図書の国語教科書（小1～4）、『にほんごドレミ』、『にほんごジャンプ』及び『にほんごチャレンジ』（国際協力機構）が使用されており、第1日ボ学校では、国際協力機構の『にほんごドレミ』、『にほんごジャンプ』、『みえこさんのにほんご』及び『にほんごだいすき1.2』と並行して東京書籍と光村図書の国語教科書を使用している。

外務省の義務教育学齢期子女向けの教科書無償配布制度はまだまだ十分に活用されていない状況にある。

中等教育

上記【初等教育】を行っている学校のうち、オキナワ第1日ボ学校とヌエバ・エスペランサ校は中等部6年まで、サンファン学園では中等部4年までの生徒が日本語を学習している。内容は同項参照。

高等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

学校教育以外

ラパス市のラパス日本語普及校では、子供クラスは『こどものにほんご』（スリーエー出版）、成人クラスは『みんなの日本語』を使用している。サンタクルス市のサンタクルス日本語教室子どもクラスでは、主に『にほんごドレミ』『にほんごジャンプ』『にほんごチャレンジ』（国際協力機構）、『まるごと』（国際交流基金）を使用、成人クラスでは『みんなの日本語』を使用している。コチャバンバ市の日本語教室では、『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）、『こどものにほんご』（スリーエー出版）及び『にほんごだいすき1.2』と並行して、その他自作教材が使用されている、トリニダ市では『みんなの日本語』、『ひらがな・かたかなカード』、『漢字ドリル』が使用されている。

IT・視聴覚機材

一部の学校で使用している。

5.教師

資格要件

初等教育

資格要件は特にない。

中等教育

資格要件は特にない。

高等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

学校教育以外

資格要件は特にない。

これまでは日本語を母語として学習してきた一世が主体であったが、2010年代から日系二世へとシフトしている。

二世及び非日系の教師のうち15名は日本語能力試験1級合格者でありバイリンガル。

2024年現在、若干名のノンネイティブ日本語教師が活動中である。また、日本語教師になる一つの基準として、日本語能力試験のN3（以上）が検討されている。

日本語教師養成機関（プログラム）

ボリビア日本語教育研究委員会主催の日本語教師養成講座を2021年から毎年実施している。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

日本人の長期滞在者（ボリビア人と結婚して移住した人）や一時滞在（地域での日本語教師募集に応募したボランティアの人）などが日本人教師として授業にあっている。日系社会においては、日本人の考え方や習慣・生活文化などを継承させるためには、日本で育った日本人教師が必要であると考えている。

教師研修

国内研修としては、ボリビア日本語教師合同研修会（ボリビア日本語教育研究委員会主催）がある。また、2021年度より日本語教師養成講座（ボリビア日本語教育研究委員会主催）を実施している。第三国研修としては、汎米日本語教師合同研修会（ブラジル日本語センター）。訪日研修としては、日系継承教育研修（JICA 主催）及び海外日本語教師研修（JF 主催）がある。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

全国規模のものとして、1997年に組織された「ボリビア日本語教育研究委員会」がある。ボリビア国内における日本語教育の実態把握と質の向上を目的とした研究組織であり、日系社会、日本語教育機関、日本語教師などを中心に構成され、調査・研究・情報共有を行っている。

主な活動として、日本語教育の現状調査や課題整理のほか、日本語教師を対象とした教師養成講座の実施、教授法や教材活用に関する研修を行っている。また、日本語学習者向けのお話大会や交流活動を通じて、学習意欲向上と日本語使用機会の創出にも取り組む。さらに、ボリビアにおける日本語能力試験の実施機関であるとともに、南米諸国の日本語教育機関とのネットワーク構築を進めており、地域レベルでの教育支援と情報交換にも貢献している。

最新動向

日本語教師合同研修会を再開

[教師会・学会一覧へ](#)

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

JFからの派遣は行われていない。

国際協力機構（JICA）からの派遣（2025年10月現在）

青年海外協力隊・海外協力隊

ボリビア日系協会連合会(ボリビア日本語教育研究委員会) 1名

その他からの派遣

(情報なし)

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

共通の評価基準や試験は確認されていない。

10.日本語教育略史

1952年

日本からの招へい教師（1名）による日本語授業開始<ラパス市>

1954 年	最初のウルマ植民地に幼稚園・小学校低学年の日本語による授業開始 ＜オキナワ移住地 サンタクルス県＞
1955 年	転地先のパロメティーヤにて、幼稚園・小学校設立（低学年は日本語による授業）＜オキナワ移住地 サンタクルス県＞ 学校教育（小中学校）開始（スペイン語の授業の後、日本語で授業） ＜サンファン移住地 サンタクルス県＞
1957 年	再度の転地先オキナワ移住地にて日本語塾開始（学校はスペイン語で授業）この後、幼稚園・小・中学校にてスペイン語の正規の授業の後、日本語の授業実施＜オキナワ移住地 サンタクルス県＞
1958 年	有志により日本語学校開設（1年で閉鎖）＜ラパス市＞
1965 年	「サンタクルス日本語学校」（幼稚園・小・中学校）設立＜サンタクルス市＞
1969 年	「ラパス日本人会日系子弟補習教室」開校＜ラパス市＞
1970 年	「ラパス日本語普及学校」開校＜ラパス市＞
1980 年	「サンタクルス州日本語教育研究会」設立
1980 年代 後半	JICA 海外協力隊、日系社会ボランティアの日本語教師派遣＜リベラルタ市＞ JICA 海外協力隊員の活動外ボランティアとして、日本語学習希望者のクラス開設＜トリニダー市＞
1981 年	「ラパス日本人会日系子弟補習教育教室」が、日本政府により「ラパス補習授業校」に認定される。＜ラパス市＞
1987 年	私立「オキナワ第1日ボ学校」（小中学校）開校 午後の部は日本語学校として日本語で授業を実施 ＜オキナワ移住地 サンタクルス県＞ 「サンファン学園」（小・中学校）がボリビア政府との試験的協定校を設立し、日本語を外国語科目として採用＜サンファン移住地 サンタクルス県＞
1994 年	日本語能力試験実施開始
1995 年	「サンファン学園」（幼稚園・小・中学校）はボリビア政府との協定校として無期限の認定校となる＜サンファン移住地 サンタクルス県＞

>

1997年	「サンタクルス州日本語教育研究会」がボリビア日系協会連合会の一委員となり「ボリビア日本語教育研究委員会」として再編
2003年	JICA 日系社会ボランティアの日本語教師派遣により、日本語クラス継続<トリニダー市>
2008年	学習希望者の減少により日本語クラス閉鎖 <トリニダー市>
2008年	「ラパス日本語普及学校」が「ラパス、ボリビア日本文化財団日本語普及学校」として法人格取得
2009年	リベラルタ日本語普及講座休講
2011年	教育法改正
2013年	コチャバンバ市に日本語普及クラス「ひのき学級」が同地の日系人有志により開設
2016年	コチャバンバ市の日本語普及クラスは、コチャバンバ日ボ文化協会の「日本語教室」として再編された。
2018年	オキナワ第1日ボ学校 中等科3年クラスを開設
2019年	オキナワ第一日ボ学校 中等科4年クラスを開設 サンタクルス日本語普及校・補習部が非会員日系子弟を受け入れるようになった
2020年	オキナワ第一日ボ学校 中等科5年クラスを開設 コロナ蔓延防止措置に伴い、サンタクルス日本語普及校が閉校、他校はオンライン授業に切り替え、対面で行われていた行事はすべて中止となった
2021年	日本語教師合同研修会実施（オンライン） 日本語教師養成講座を実施（オンライン） ボリビア日系協会連合会主催オンライン日本語教室開設 日本語学校生徒オンライン交流会実施（中学生・高校生別）
2022年	日本語教師合同研修会実施（オンライン） 日本語講師養成勉強会を実施（オンライン） 日本語学校生徒オンライン交流会実施（中学生・高校生別） 日本語能力試験を再開（12月）

2023～2024 年

日本語教師合同研修会（オンライン）を実施
日本語教師養成講座（オンライン）を実施
日本語教師合同研修会（オンライン）を実施
スポーツ交歓会、お話大会実施を再開

2025 年

対面での日本語教師合同研修会を再開

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

E メール：kunibetsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）